

30107河川土木工事業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労 働 者 規 模
1	2017	12	11~12	水路工事現場で、バックホウを使用し、L型擁壁の据え付け作業を行っていた。L型擁壁が所定の位置に納まったので、吊りワイヤーを緩めたところ（バックホウのフックに掛けていたかは不明）、擁壁が被災者の方に倒れ、右足に接触し負傷した。L型擁壁の位置合わせをバールで行っていたところ、L型擁壁が倒れ始めたものである。	54	5	523	1 ~ 9
2	2017	12	13~14	資材置場にて、矢板およびH鋼（0.3m×0.3m×2.5m）をバックホー（0.25?）を使って移動するとき、左足甲を負傷した。端太角の場所に段差があったため、足がそれより高い所にあったことに気づけなかった。	63	7	142	10 ~ 29
3	2017	12	14~15	管理用通路を移動中、雪により滑りバランスを崩し、通路上に尻もちをつき被災した。	47	2	719	10 ~ 29
4	2017	11	11~ 12	資材置場で路盤材を4tダンプから降ろしている最中、鉋碎の塊が途中で引っ掛かり、手で小さな塊を取り除いたところ、その上の大きな塊が滑り落ちてきて被災者の左手に直撃し負傷した。	51	4	523	30 ~ 49
5	2017	11	7~8	作業前の始業前点検時、バックホウ台船上の左舷側のウインチの乱巻を整えようとした時、安全な体勢で作業を行っていなかった為、被災者がウインチのワイヤーに手を巻き込まれた。	54	7	169	1 ~ 9
			12~	フェンス補強の作業終了後徒歩にて補助看板（点滅灯）の直しを				30

14	2017	9	11~ 12	河川右岸の間知天端にて伐木・除伐等の作業を委託していた、原材を河床に投下し、河床陸地に引き上げ、トラック積み込みをする為、小型バックホーを使用し作業を行っていた、小型バックホーが河床陸地部移動中、一部地盤の安定しない個所で、重機がバランスをくずし、転倒した、その際、被災者は重機より飛び降り水面に着水したが、傾き転倒してきた重機に水中で挟まり受傷した。	50	1	142	1 ~ 9
15	2017	9	16~ 17	河川工事でブロックを移動させていた際、ブロックが転がり、笠木ブロックと、ブロック塀の間に手の指を挟まれた。	48	7	418	1 ~ 9
16	2017	8	15~ 16	工事現場において、仮設ハウスの設置台を組立中に立ちくろみがかし、単管に足を取られて躓き、右手をついて、手首を負傷した。	53	2	611	30 ~ 49
17	2017	8	14~ 15	張ブロック施工の斜面で法面除草作業中に、草刈機の刃が草以外の小木、竹等に接触し、草刈機の刃先が勢いよく足元付近に跳ねて負傷した。	42	8	169	10 ~ 29
18	2017	8	11~ 12	作業場で片づけの作業中にあやまって手で動かしていた天然石で指を挟んでしまった。	36	7	523	1 ~ 9
19	2017	7	9~10	貯水池工事で岩掘削（火薬使用）にて、クロラードリルを使用した穿孔中に、オペレーターはロッドが閉塞したため一度解消するためにロッドを一旦穿孔中の孔から抜き差しする操作を行った。被災者は穿孔が完了したと思い、孔の入口付近に蓄積された粉で孔が塞がるのを防ごうと手で払いのけようとした瞬間、オペレーターは穿孔が完了していなかったため、再開しようとロッドを下げたため、孔とビットに右手を挟まれて負傷した。	22	7	521	1 ~ 9
				業用水供給対策工事に伴う、水中ポンプの設置作業において、被災者（運転手）はクレーンによるポンプの据換え作業の無線合図				30

20	2017	7	10~11	を行っていたところ、急にケイレンを起こし、座り込んだため、直ちに体の冷却処置を行った。	45	11	715	~ 49
21	2017	7	13~14	午後の休憩後、休憩所から30m程度離れた自社車両に行った。エンジンがかからず、修理中に手が震えだし、口からアワを吹いて倒れた（警備員談）。当時の気温は35℃、朝から作業を開始し、昼までの作業、主にバックホウを操作し足場材の移動の作業を行っていた。午前中に約30分程度休憩はとっていた。救急車により病院に搬送され、医者より熱中症と伝えられた。	34	11	715	10 ~ 29
22	2017	7	16~17	プレキャスト側溝pu300を敷設作業中で設置位置の微調整作業をバールを使用して行っていた。被災者はpu側溝の端を両手で持って手元をしていたが、左手薬指先が既設配管に挟まれて負傷した。	51	7	529	1 ~ 9
23	2017	7	17~18	作業終了後の帰宅途中、インター付近下り車線にて3人乗車のワゴン車が、ガードレールに衝突した。（詳細）前を走行中のバスを追い越し、さらに前を走行中の乗用車を追い越したところ、タイヤが外れそうな感覚があったためハンドルを左に切ったところ、左のガードレールに衝突し、スピンした。（同乗者）	29	17	231	30 ~ 49
24	2017	7	17~18	作業終了後の帰宅途中、インター付近下り車線にて3人乗車のワゴン車が、ガードレールに衝突した。（詳細）前を走行中のバスを追い越し、さらに前を走行中の乗用車を追い越したところ、タイヤが外れそうな感覚があったためハンドルを左に切ったところ、左のガードレールに衝突し、スピンした。（同乗者）その反動でワゴン車から投げ出され中央分離帯に衝突した。	57	17	231	30 ~ 49
25	2017	7	17~18	作業終了後の帰宅途中、インター付近下り車線にて3人乗車のワゴン車が、ガードレールに衝突した。（詳細）前を走行中のバスを追い越し、さらに前を走行中の乗用車を追い越したところ、タイヤが外れそうな感覚があったためハンドルを左に切ったところ、	65	17	231	30 ~ 49

				ろ、左のガードレールに衝突し、スピンした。（運転者）				
26	2017	7	10~11	幅約4m~5m、水深約30cmの川沿いで、樹高約4m・根元径（切口）8cm~10cmの雑木（柳）を伐採したところ、木が根元からしなっており、伐った拍子にチェーンソーのバーに木が乗り木の重さとしなっている反動で、根元付近についていた左足に向かってチェーンソーが押し戻され、チェーンが回っている状態で左足の甲から足首付近に接触してしまった。	63	8	139	10 ~ 29
27	2017	7	13~14	当該作業場ブロック布設作業に於いて、バックホウ（移動式クレーン仕様）0.5?級にて、横帯ブロック（1.34t）吊上時に、吊荷重心が合わず荷が振れたため、オペレーターが再度吊り直しを行うために吊り荷を降ろしたと同時に、被災者が振れを抑えようと手を伸ばしたところ、降ろした横帯ブロックと地面の接地面が合わずに、被災者の方向へ横帯ブロックが倒れ足が下敷きになり負傷した。	44	7	372	10 ~ 29
28	2017	7	8~9	工事現場事務所横で、バックホウのアタッチメント交換時に、アタッチメントの連結金具が未固定であった箇所に手があたったために金具に挟み負傷した。	25	7	142	10 ~ 29
29	2017	6	15~16	10尺の脚立を使って剪定作業をしている時に、張力のかかったつるを切ったところ、つるが左目に当たり、脚立上でバランスを崩し転落して、右手首と左目を負傷したものである。	44	1	371	1 ~ 9
30	2017	6	16~17	高さ40m、斜度60度程の法面で、鉄筋挿入工のラジコンによる削孔作業中に、5cm径程の石が、発生場所は特定できないが上方から落ちてきて、保護帽を着用していたが、頭部左こめかみ付近に当たった。	44	4	711	1 ~ 9
31	2017	6	16~17	工事現場において、工事作業に支障となる左岸側の支障木を根元からチェーンソーで伐採作業中、指示を出していた被災者の方に倒れて来そうになったため避けようとして、誤って後方にある護岸陥没箇所に転落し、左足首付近を骨折した。	54	1	414	1 ~ 9

32	2017	5	11~ 12	河川内の河岸整備工事現場にて、仮囲いフェンス撤去の為、バックホウにて周囲の雑草除去の為に表土のすきとり作業を行っていた。バックホウを運転していた被災者が、重機から降りようとしてシートベルトを外し、立ち上がった時に突然気を失い運転席より転落し、頸椎を骨折した。	43	1	142	10 ~ 29
33	2017	4	11~ 12	足場上段部において作業員がアンカー頭部のプレートの取り付け作業を行っていたが、シール材の取り付け忘れがあったため、プレートを一旦取り外そうとしたときに手が滑り、プレートが下に落下して、一段下の足場で作業（清掃作業）を行っていた作業員（被災者）の右手にも落下した。	53	4	521	50 ~ 99
34	2017	4	11~ 12	仮締切内1段支保工下の二次掘削箇所で、仮締切鋼矢板に付着した土ベラ落としをしているときに、地上から掘削中の0.7?ロングアームバックホウのバケットと仮締切鋼矢板の間に入ってしまった。被災者の右足がバックホウのバケットと仮締切鋼矢板の間に挟まれ被災した。	25	7	141	30 ~ 49
35	2017	3	11~12	災害復旧事業下堰用水路復旧工事作業において、パイプ（600Φ×4m）のジョイント水回し作業中、重機で押してパイプの変形を修正しながら作業をしていたところ、安全が確保されていない状態で動かしたため、両足でパイプを押さえていた被災者の右足が堰のコンクリートとパイプの間に挟まれて受傷した。	65	7	419	1 ~ 9
36	2017	3	9~10	河川の護岸工事をしていたとき、斜面にコンクリートブロックを据え終えたあと、立ち上がろうとして身体を左側に捻ったところ、左肩上がりの斜面であったため左脚に負担がかかり、左足膝を痛めた。	37	19	417	10 ~ 29
37	2017	2	10~11	河川護岸補修工事現場の環境保全型ブロック積上部でシラス埋戻しランマ転圧時にランマが傾き落ちない様に支えようとしてH=2.5mの場所からバランスを崩し転落した。転落の際に左足が魚巣ブロックに引っ掛かり足首をひねってしまった。	24	1	418	—

38	2017	2	16~17	土木シートを撤去する作業時、後ろ向きに引っ張っていたところ、敷鉄板の上に残っていた土の塊で、躓き、後ろ向きのまま転倒し、足首を負傷した。	59	2	417	10 ~ 29
39	2017	2	15~16	法面にブロックをクレーンにて設置中、次のブロック据付準備を行っていたが、仮置きブロック2段積みの上から転倒した。転倒した原因については、本人も憶えていない。クレーンは、その直前のブロックを吊って据付中であり、また他の作業員も転倒したところを見ていない。	77	1	611	—
40	2017	2	9~10	下水道工事の掘削作業中に中石が崩れ落ち、右足に当たり負傷した。	61	4	711	1 ~ 9
41	2017	2	11~12	民間の農家組合より依頼された堰の修繕工事において、他2名と上下で単管パイプ（2m）の受け渡しを行っていたが、上部で作業していた被災者の足元が滑り、1.5mの高さより下へ飛び降りた。その際に着地地点がコンクリートだった為、左踵を骨折した。	59	1	419	30 ~ 49
42	2017	2	15~16	改修工事の工区内にて、工事で使用するブロック材を搬入する為4t車を運転手と同乗者の2名で西側海岸の農道（幅員約3m）を時速約10km走行で南進していたところ、前方不注意により柵などの転落防止措置がない側に左側前輪を脱輪してしまい、そのまま法面を滑るように落下し横転した。上流側の工事のため堰き止められていて水はなく、露出した川底面に車両左側が激突し大破した。その際、運転していた作業員2名（当該被災者）が被災した。	64	17	221	—
				ブロック（435kg）のコンクリートブロック（A）をバックハウ0.25?（1.5t吊：SH75）の吊り上げによるブロックの取付作業中、当時の天候は曇り時々晴れであり、作業箇所上部（工事用道路）には作業指揮者を設置していた。被災者は取付直後のブ				10

43	2017	2	16~17	ロックをバールを使用し、方線に合わせようとブロックAを地山側へ微調整を行った。その瞬間にブロックが被災者にもたれ掛かるように倒れて来た。被災者は胸部付近でブロックを受け止めるような体勢でブロックに挟まれた状態になった。	68	5	523	~ 29
44	2017	2	8~9	河川工事の現場内にて、場内歩行中、石塊の上へのり（右足）、足をひねり転倒し、右くるぶし脱臼骨折となった。	69	2	711	—
45	2017	2	14~15	災害復旧の為の護岸修復作業中、水の流れを一時的に切り替える為の樋と樋を接続する為の特製ビニールシートを設置しようとして水の流れが強かったため、作業に手間取りユンボで樋を押す作業の人間とタイミングが合わず、手を放す前に樋が押されたため、樋と樋の間に指を挟み負傷した。	62	7	141	1 ~ 9
46	2017	2	11~12	工事施工中、現場で発生した伐木・枝等を大型ダンプで運搬作業中、実車にて集積場へ向かう途中、現場に差し掛かったところ、反対車線を走行してきたワンボックス車がカーブ途中でスリップし制御不能な状態で横向きになりそのまま当方車両車線に飛び出してきて、回避するため左へハンドル操作したが間に合わず激突した。相手車両が確認できたころにはスリップ状態でありブレーキを踏んだが効き始めた頃にぶつかった。	38	17	231	—
47	2017	1	10~ 11	片付け作業の時に、クレーン付4t車のセット準備作業中に、自社置き場で足を滑らせて後方に右手から転倒し強打した。しばらく様子を見ていたが痛みが悪化した。	78	2	416	1 ~ 9
48	2017	1	9~ 10	資材置場にて、4トンダンプカーに鉄板積込作業（PC200、アームクレン仕様）中、鉄板1500mm×3000mm×22cmを積込の際、相手方との合図の未確認のため鉄板にて右手首を挟む。	59	7	212	1 ~ 9
				清掃工水面清掃工において河川内の流木撤去を行う為、潮見の関係から、午前中に現場付近にて待ち合せをして打ち合せを行い、最干潮時に流木に玉掛けを行うという事で、三名で作業待機して				

49	2017	1	12～ 13	いた。昼過ぎから作業を行ったが、二名で作業が可能で、胴長のサイズも間違っ て持ってきていた ので、被災者は陸 上に残るよ うに他二名に言 われて残った。玉 掛け作業が終 わり、陸上に戻 ると被災者がい ない事に気づき 、携帯電話を掛 けたが出なかつ たので、周辺を 捜している と、水面にうつ 伏せに浮いて いる被災者を 発見した。	61	10	713	1 ～ 9
50	2017	1	17～ 18	自社の土場で改 修工事の現場 から持ち帰った 葦の束（径40cm くらい）をツ ーグリップ式 草刈機を用い て短く切断し ていた時（処 理場で廃棄す るため）、エ ンジンを高 速にしていた ため、はず みで刃先が左 足の方へ回 転してきて 当たった。	55	8	139	1 ～ 9
51	2017	1	11～ 12	2tダンプの後 部上下レバ ーを作業中 、誤って手 をすべら して体の バラン スを崩し 、腰部 を強打 した。	80	2	221	1 ～ 9
52	2017	1	11～ 12	工事現場内の 仮設の敷 鉄板上で 、生コン クリートの 打設の監 督をして いて、生 コンクリ ート車 を誘導 している 時に、1t 土嚢の 吊紐が 作業ヤ ード上 に露出 しており 、左足 の先が 吊紐の 輪に引 っ掛か って鉄 板上に 転倒し 、左膝 を強打 し、そ の反動 で左肩 部も強 打し骨 折した。	67	2	611	—
53	2017	1	11～ 12	工事現場内の 農道で、 農業用水 路の配管 の移設 作業を している 時、幅 1.2m・ 深さ 1.25m・ 長さ 9.9mの 掘削溝 内で作 業中、 直掘り したた め背面 の土砂 が崩れ 、従業 員の胸 下が埋 まった。	62	5	711	30 ～ 49
54	2016	12	15～ 16	災害復旧工 事で、バ ックホ ーを使 用し、 大型土 のうを 河川敷 へ積み 上げる 作業中 、被災 者は、 大型土 のうの 上に乗 り、2 段目の 大型土 のうの 吊ひも をバック ホーの フック に掛け た瞬間 、運転 手が 大型土 のうを 吊り上 げて振 り子状 態とな った。 被災者 は大型 土のう に突き 飛ばさ れバラ ンスを 崩し、 河原へ 仰向け に落下 し、背 中、腰 、肩を 強打負 傷した。	68	1	141	10 ～ 29
				河川での工 事中に パワー ショベ ルを操 作して いた。 鉄板を 吊り上				1

55	2016	12	13～ 14	げた際にバランスを崩し、パワーショベルが倒れ、運転席から放り出されたため、顔・ひざ・腕を負傷した。	55	2	212	～ 9
56	2016	12	9～ 10	ダム敷地内において、現場事務所として設置していた仮設ハウスの屋根雪を下ろそうと移動はしごを立て掛けて昇ろうとしたところ、はしご下端部が凍結した雪面により滑り、バランスを崩して墜落し、頭部を打ち付けた。	59	1	371	1 ～ 9
57	2016	12	8～9	法面で右岸側の木を伐採作業中、木は左岸よりに傾いていて、このまま伐採するとガードレールにぶつかるため右岸側で川に直角方向に倒そうとしたが、予期せぬ方向に倒れてきて避けきれず、右足かかとに当たり骨折した。	39	5	712	1 ～ 9
58	2016	11	8～9	積みブロック天端の足場の解体作業中に安全帯を着用していなかった為、転落した。	67	1	411	1 ～ 9
59	2016	11	8～9	現場において大型土のうを製作中にバックホウのバケットと土のう製作用の鉄管に手を挟まれて右手を負傷した。	62	7	142	10 ～ 29
60	2016	11	9～ 10	水路運搬中、ナイロンスリングにて水路を吊り上げ4tダンプに積み込んだ。ナイロンスリングをはずしたつもりが、水路の端部に引っかかり、横にずれて足の甲に落ちた。	58	4	212	1 ～ 9
61	2016	11	14～ 15	現場において、場所を移動するのに歩いている時、枯木の上に右足で上ったところ、右足が滑ったので、右手で雑木の枝に掴まった時に右肩にビリッときて、腕が伸びたような状態になった。	65	1	712	30 ～ 49
62	2016	11	16～ 17	護岸工事の準備作業中、仮設ヤードで使用する敷地にある立木で支障となる枝の切断作業中、切断した枝を足に落とし負傷。	73	4	712	10 ～ 29
63	2016	10	14～	現場でコンクリートの練り込みの後、コテでなでる作業を終えた	48	1	411	1 ～

			15	後で、足場上でバランスを崩して砂の上に転落。				9
64	2016	10	10～ 11	橋撤去に伴う吊り足場の設置作業中、ワイヤー足場材が崩落し、 下で材料の受け渡しをしていた被災者が右足首を挟んだ。	38	4	521	1 ～ 9
65	2016	10	14～ 15	ブロック積擁壁の天端の高さをそろえるため、足場の上から、ブ ロックの切断作業を行っていたが、腰に負担がかからないよう に、右足で、切断部分に近い場所へ足をかけて作業を行ったた め、誤って、自身の足を切ってしまった。	72	8	169	1 ～ 9
66	2016	9	17～ 18	資材置場において、トラックの荷台から降りようとしたところ、 足をすべらせ転落した。その際、左手をついた為、左ひじを脱臼 した。	43	1	221	10 ～ 29
67	2016	8	10～ 11	工場の現場内で、敷鉄板設置時、運搬車より鉄板1.6tを吊りフッ クで荷台より荷卸し作業を行っていたところ、被災者が作業中 だった事に気付かず、重機オペレーターがバックホウの操作を行 い、吊りフックと鉄板との間に左手親指を挟まれ負傷した。	31	7	142	1 ～ 9
68	2016	8	9～ 10	工事現場において、工事に支障となる木の伐採作業中、約3.4m の高さから足を滑らせて地面に落下し負傷した。	50	1	712	1 ～ 9
69	2016	8	10～ 11	堤防の路肩にて大ハンマーで杭打ち作業をしている時に、杭の頭 を打ちそこね、右手関節捻挫・右手示指を痛めた。	47	19	921	30 ～ 49
70	2016	7	11～ 12	資材置場にて、重機の点検中に運転席に登ろうとして、取手を摘 み損ね約1.5mの高さから落下し、後頭部を強打した。	0	1	141	1 ～ 9
71	2016	7	8～9	地内の現場で2tダンプトラックの荷台へコンクリートパネルを立 ち込む作業中、ラチェットを使い番線を結束していたら手元が滑 りラチェットが目の下に当たり負傷した。	27	3	379	1 ～ 9

72	2016	7	13～ 14	河川の草刈り作業に就くため、歩行移動中、自生しているクズのつるに足をとられ、約5m下の水路に落下した。	55	1	417	30 ～ 49
73	2016	7	11～ 12	ダム修繕工事において、河川土砂掘削地から土砂処理場への土砂運搬後、空のダンプでトンネル内を走行中、対向車のライトで目がくらみ、ブレーキを踏んだところ後輪が横滑りし、対向車線にはみ出しダンプの右後部と対向車前面が衝突し、全身を強打した。	43	19	221	1 ～ 9
74	2016	5	11～ 12	資材倉庫にて、幅45cm長さ360cm重さ約15kgの型枠木材を整理中、誤って手が滑り、足の左親指上に落とし負傷した。	78	4	522	1 ～ 9
75	2016	5	14～ 15	水門の耐震補強現場にて、側部戸当たりコンクリートを切断し、撤去する作業を行っていた際に、吊り上げたコンクリートブロックが足場上に落下し、最下部まで落下した。その際、被災者も巻き込まれ、最下部まで落下した。	33	1	212	30 ～ 49
76	2016	4	13～ 14	資材置き場において、資材片付け作業をしている時に、敷鉄板を移動させる際、相伴作業で2人で持って移動中に、1人が手を滑らせて、被災者は支えきれず、敷鉄板を下に落とした際、左手中指をはさむ。	45	7	521	10 ～ 29
77	2016	3	14～ 15	災害復旧工事の作業現場において、間知ブロックを積み上げる作業中、水面より1.5mの上段で河川道路側からユンボで降した場所から間知ブロックを積みそろえる作業員に手渡しするとき、左手で引寄せ作業を不慮意に力を入れ、左手をひねり、左肘関節を捻挫した。	42	19	529	1 ～ 9
78	2016	3	14～ 15	河川復旧工事現場に於いて現場監理中、建設資材につまずき転倒し、横に置いている資材に左顔面を強打し負傷した。	65	2	711	1 ～ 9
				ダム建設工事における洪水吐減勢工工事において、コンクリート				

79	2016	3	10～ 11	ポンプ車でコンクリート打設中、配管が裂けた為、配管を交換するため、高さ約2mの車体部分に上がって作業していたところ、バランスを崩し、左足から着地して負傷した。	34	1	149	10 ～ 29
80	2016	3	17～ 18	水路修復工事現場で、作業終了後、後片付けのため倉庫内を歩いていたとき、床に落ちていた釘を踏んで左足を被災した。	61	3	719	10 ～ 29
81	2016	3	16～ 17	池改修工事で堰堤の築造中に、転圧機で作業中、前方から、バックホウが下がってきて、左足首をゴムキャタにふまれた。	57	7	142	1 ～ 9
82	2016	3	9～ 10	古いブロック塀を重機にて切り崩す予定の作業中に重機を降り、深さ160cm、巾50cmの側溝の中に自身が入り込み斫り作業を行っていた。その作業中に何らかの原因により高さ300cmのブロック塀が倒壊。ブロック塀の側溝を挟んだ反対側の新設塀高さ160cmとの間に挟まれ頭部挫傷。	53	5	418	10 ～ 29
83	2016	3	10～ 11	倉庫で卓上丸のこを使って合板を切断している時、強く合板を押し込んだことで、刃が多めに出されていたため、刃に接触し、右手の指を切るケガをした。	64	8	131	10 ～ 29
84	2016	3	16～ 17	水路工事で新設水路の脇を埋戻し作業で土砂の敷均し中に、通常水路と直角に設置している渡り板を作業の支障となる為、本人が斜めにズラして一時作業をしていた所、誤って、斜めにした渡り板に乗ってしまった。板といっしょに深さ1.3mの水路へ落下。	73	1	416	1 ～ 9
85	2016	3	10～ 11	土砂を積載した4tトラックを運転して走行中、堤防中段で道路幅員がかなり狭く、オーバークロスする道路下の隧道を抜けた際、折からの強風に煽られた拍子にハンドルをとられて車両が道路を逸脱し進行方向左側斜面に転倒・転落した。	60	17	221	1 ～ 9
			9～	高さ2.4m、奥行1.2mの擁壁上で法枠工の測量をするために、略図と現場の照合作業に当たっていたが、法面上部が見えづらい状				10

86	2016	3	10	況だったために、後ずさりしたら、バランスを崩して転落しそうになったので、体を反転して、その前方から飛び降りて、受傷した。	55	1	418	～ 29
87	2016	2	10～ 11	水路コンクリート壁をブレイカーで割っていた際、ブレイカーの先がすべり左足の甲に当たり負傷した。	36	6	149	1 ～ 9
88	2016	2	10～ 11	復旧工事現場において、被災者が現場から町道に上がるため、田んぼ法面にある坂道を駆け上がっていたとき、足をひねり右足ふくらはぎに肉ばなれをおこした。	43	19	417	30 ～ 49
89	2016	2	9～ 10	資材置場で単管の整理作業中、足元の単管がズレて、バランスをくずし転倒、落下し、負傷した。	62	1	521	10 ～ 29
90	2016	2	15～ 16	河川改修工事現場で仮設水路管を配置取付作業時に一度配管したが水漏れした為取り外そうとしたところ、取り外しの際、ボルトが破損して右腕部を直撃して負傷し、裂傷を負った。	67	4	419	10 ～ 29
91	2016	1	17～ 18	工事現場で、法面の下で床堀面を整形していたとき、法面に浮石があり、その石が自然と転がり落ち、右足の親指にあたり骨折した。	54	5	711	1 ～ 9
92	2016	1	11～ 12	倉庫に於いて、片付けを行っていた。その際、クレーン仕様バックホウ0.2㎡で鉄板を吊り上げる為、シャックルを繋ぎ合わせて持ち上げようとした所、シャックルを繋ぎ合わせている所に指を挟んでしまい、負傷した。	52	7	372	10 ～ 29
93	2016	1	15～ 16	川で石積および運搬作業中に、40kgくらいのブロックを上を持ち上げた際、バランスを崩し腰を痛めた。	75	19	529	1 ～ 9
94	2016	1	10～ 11	生コンクリートの打設作業中、高さ約1.4m、1.5mの足場より足を踏み外し、バランスを崩して落下して、左足を足場にぶつけて	73	1	411	1 ～

				被災した。				9
95	2015	12	16～ 17	河川災害復旧工事の現場で床堀作業中に掘削した土砂を運搬容器を使って搬出し荷降しする際に容器に手をかけていたため、容器と吊り金具の間に手をはさんだ。	23	7	379	1 ～ 9
96	2015	12	14～ 15	道路、川の拡張工事中に、水路に側溝を設置するために、別の作業員がクレーンで側溝を水路に下ろしている時に、被災者が下で側溝の場所を合わしワイヤーを外すために水路の下で作業中に、2本のワイヤーと1本のチェーンを外したと思ったがチェーンが外れておらず、宙吊りの状態になった際に側溝が体にあたり負傷した。	49	6	372	10 ～ 29
97	2015	12	10～ 11	コンクリートブロックを仮置場から積替運搬の荷卸し作業中に、3tトラックの後方荷台上で、荷締ロープをはずしていた時に荷物が動きだし、あわてて足を滑らせ後部鉄板に腰を強打した。	52	2	611	10 ～ 29
98	2015	12	10～ 11	河川災害復旧工事中の際、現場にて資材を運んでいて、石をふみバランスを崩し、転倒。	45	2	711	1 ～ 9
99	2015	12	16～ 17	鋼矢板の吊上げ作業中に、噛み合っている鋼矢板を鋼鉄製のあおり棒で外そうとした際に、吊金具から鋼矢板が外れ、弾みであおり棒が被災者の右足に落下し、骨折した。	41	4	372	50 ～ 99
100	2015	12	8～9	バックホーで鋼矢板を吊り移動させる作業中に、バックホーが移動の為に走行を右側に切った所、バックホーのキャタが鉄板の角に触れ鉄板が移動し、碎石の仮置きで見えなかった鉄板の反対側が補助作業員の左足に動き、作業員の安全靴が鉄板に挟まれ、左足の指を負傷した。	75	7	417	—

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。

